

一 解答

二

- 問一 ① 夏至 ② 効（いて） ③ 地味 ④ 捕（る） ⑤ 宮内
問二 ① 進 ② 経 ③ 利 ④ 実 ⑤ 報
問三 ① 我慢して ② いた ③ 来ると ④ 見た ⑤ 出しても
- 問一 イ
新しいもののすきな性格
問二 ア 水はけ イ 破損 ウ 保温 エ 屋根裏 オ 雨もり カ 傾斜のついた
問三 A 建物でもいちばん風化されやすい B いろいろと故障もおきてくる C 防水工法を屋上にもつかっている
問四
問五 ア
たやすく軽快で強じんな建物をつくることが可能になったということ。
問六 エ
欧米の気候に適した建築を、近代的美観として取り入れることは、日本が湿潤な地帯にあることを考慮していない。
問七
問八
問九 ウ

三

- 問一 a イ b エ
問二 ウ
問三 ア 相当 イ 笑い声 ウ これまでの長い疲れ
問四 エ
問五 ・ 蛍の大群を見ること。 ・ 大阪へ行くこと。
問六 出逢うかわからぬ一生に一遍の光景に自分の行末を賭け、緊張や期待が入り混じった気持ち。
問七 ア
問八 ア 静じゃく イ 減んでいくもの ウ 次の蛍
問九 イ

二 解説

一

傍線①の直前にある「日本建築は屋根、西洋建築は壁」という光景をしめすものはなにかを考えます。家全体が屋根だけのような「わらぶきやかやぶきの農家」であればその光景をしめすことができるので、最も当なものは選択肢イとなります。

問一 傍線⑦の前にある「このような建築のスタイル」の指す内容をおさえます。「そして、その材料」から始まる内容を踏まえて考えると、選択肢エが最も適当であることがわかります。

問九 本文全体から筆者が、もともとの日本建築が減り、日本の気候、風土にそぐわない建築様式がもてはやされることに、問題意識を持っていることを読み取ります。筆者の主張としては、世界の流行を表面的に見るのではなく、本質を理解し、自分たちに適した建築を目指す、という内容の選択肢ウが最も適当です。

三

問四 傍線③の直前にある「なァん、遅うなってもかまわんちゃ。……まだ蛍の生まれよるところまで来とらんに」という不満そうな英子の言葉から、選択肢イが最も適当であることがわかります。

問七 傍線⑥の後にある「そしてそれは、四人が」で始まる一文の内容をおさえると、選択肢アが最も適当です。